

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書 (P)	部局名	市民部
款	項	目			課 名	防災交通課
2	1	6	災害対策費	152		

I：事業概要

施策事業名	災害対策事業
事業目的	各種防災対策事業を展開することにより防災体制を強化し、市民の安全・安心な暮らしを確保する。
事業内容	●事業の全体計画 ・訓練の実施、設備の維持管理、備蓄品及び資機材の整備を推進し、防災体制の強化を図る。 ●主な事業内容 ○災害対策事業 ・実践型の防災訓練の実施 ・市民の防災減災意識の高揚を図る啓発活動 ・防災支援事業の実施(家具等転倒防止器具取付・感震ブレーカー取付補助・防災倉庫設置補助・自主防災組織立ち上げ、資機材購入補助) ○防災設備管理 ・防災関連機器等の管理 ○備蓄品管理 ・備蓄食料や備蓄品の購入、配備 ●主な決算の内訳 ・家具等転倒防止器具取付事業委託費884,745円 ・感震ブレーカー取付補助金151,000円 ・災害時緊急情報提供システム使用料(あんしんメール・電話・LINE)3,214,266円 ・緊急放送設備管理委託料1,045,000円 ・高度情報通信ネットワーク更新工事負担金18,023,605円 ・消耗品費(備蓄食料及び備蓄品の購入、土のう用砂、防災服等)8,741,973円
事業の成果・効果	実践的な防災訓練として、総合防災訓練を11/9に羽黒小学校で実施し、約300人以上の住民参加と広域連携としてあま市からの広域避難受入訓練を実施、あま市職員及び住民も参加した。また、土砂災害訓練を6/8に倉管洞地区で、ペット同室避難の避難所運用訓練を1/17に楽田ふれあいセンターで、福祉避難所開設訓練を10/30にひかり学園で、ボランティアセンター開設訓練を8/22に南部公民館で実施した。市民の防災減災意識高揚を図るため、町内会等の依頼に応じて防災講話を実施し、自主防災活動に対する補助金により、地域防災力を向上することができた。防災ラジオ購入者向けに緊急放送の試験放送を月1回手動で行い職員訓練を兼ねて実施した。備蓄品に関しては、資機材や賞味期限が到来する備蓄食料分を購入し、賞味期限が近い食料は、各種訓練や出前講座での配布、学校給食に活用することで、市民へ啓発した。

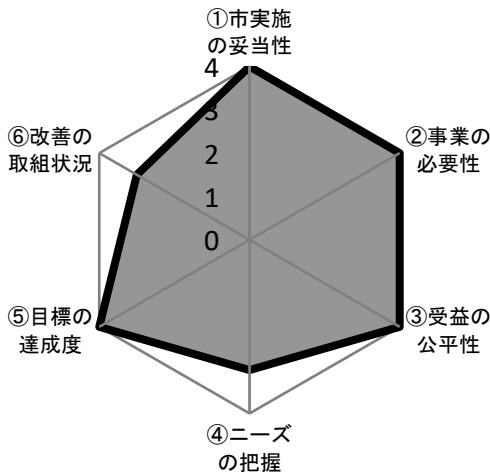
II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
災害対策事務	6,328	232	6,096	96%	3	4	3
防災設備管理	24,980	18,009	6,971	28%	4	3	4
備蓄品管理	7,731	1,005	6,726	87%	3	4	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	39,039	19,246	19,793	51%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況（単位：千円）

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		45,546	39,039	37,502
財源内訳	国県支出金	5,410	1,237	1,963
	地方債	7,500	18,000	10,900
	その他	7,962	9	30
	一般財源	24,674	19,793	24,609
一般財源の割合		54%	51%	66%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価（PDCAサイクルのCheck）

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	災害対策基本法第5条（市の責務）により、市が計画を作成及び改訂し、それを運用・実施する必要がある。
②事業の必要性	4	災害に備えた対策事務であり、発災時に欠かせないものである。
③受益の公平性	4	市民全体、個人から地域に対して幅広く行う業務である。
④ニーズの把握	3	個別のニーズが継続的にあるが、優先順位を判断し業務を実施している。
⑤目標の達成度	4	地域防災計画の見直し、防災訓練等の適切な実施、計画的な備蓄資機材の購入を行った。
⑥改善の取組状況	3	災害時の道路啓開を迅速に行うため緊急輸送道路の見直しを行った。今後も継続的に改善を図っていく。

Ⅴ：業務の見直し・点検（PDCAサイクルのC→A）

令和7年度に見直しを実施した事項	・ ペット同室避難訓練について、避難所の開設訓練から避難生活を想定した運用訓練に変更し、受付では二次元コードを用いた避難者登録の実証実験を実施した。 ・ 犬山市国土強靱化地域計画を改訂した。
令和8年度に見直しを実施している事項	・ 自主避難所登録制度の創設 ・ 防災ラジオの追加販売 ・ 受援計画の策定と地域防災計画及び業務継続計画（BCP）の実行性のある計画への見直し ・ 防災気象情報の見直しに係る対応 ・ 防災行政無線について、MCA無線に代わる次世代機器の検討
今後見直しを検討する事項	・ 二次元コードによる避難所受付システムの一般避難所への導入 ・ 災害ケースマネジメントと災害関連死対策の研究

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性（令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項）

課題	対応策・今後の方向性
誰一人取り残さない防災のため、大規模災害時における避難所での生活の質の向上。	各種防災訓練や防災支援事業の実施による住民の防災意識の向上、地域住民による避難所運営訓練の実施、防災人材の育成、備蓄品や資機材の整備などを総合的に推進することで、防災体制を強化し、地域防災力の向上を図る。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	市民部
款	項	目			課 名	防災交通課
2	1	11	交通防犯対策費	166		

I：事業概要

施策事業名	交通防犯対策事業																
事業目的	市民の交通安全を確保し快適な交通環境の整備を行うとともに、誰もが安全に安心して暮らせる環境を確保する。																
事業内容	●事業の全体計画 ・市民の交通安全の確保や交通環境の整備を行い、安全で安心して暮らせる環境を確保する。 ●主な事業内容 ○交通 ・犬山警察署や町会長、市民団体と連携して交通安全運動（各種キャンペーン等）を実施 ・交通安全事業実施団体へ補助金を交付し、活動を支援 ・自動車運転免許証を自主的に返納した65歳以上の市民を対象に高齢者免許証自主返納支援事業を実施 ・交通環境向上のため交通安全啓発看板、反射鏡、停止指導線等を設置 ○防犯 ・犬山警察署や関係機関と連携して各種キャンペーン（自転車盗、特殊詐欺等）を実施 ・防犯事業実施団体へ補助金を交付し、活動を支援 ・町内会等が防犯カメラを設置する費用を補助 ・補助錠やセンサーライトなど防犯対策設備設置費や特殊詐欺防止用電話機器購入費を補助 ●主な決算の内訳 <table><tr><td>・反射鏡等の設置及び撤去</td><td>377,300円</td></tr><tr><td>・善師野駅南自転車等駐車場法面整備工事請負費</td><td>1,232,000円</td></tr><tr><td>・反射鏡保守点検（保守点検委託料）</td><td>1,925,000円</td></tr><tr><td>・防犯カメラ借上料</td><td>3,391,740円</td></tr><tr><td>・自転車乗車用ヘルメット購入費補助</td><td>490,700円</td></tr><tr><td>・防犯カメラ設置費補助</td><td>853,000円</td></tr><tr><td>・防犯対策費補助</td><td>1,743,000円</td></tr><tr><td>・特殊詐欺防止用電話機器購入費補助</td><td>376,700円</td></tr></table>	・反射鏡等の設置及び撤去	377,300円	・善師野駅南自転車等駐車場法面整備工事請負費	1,232,000円	・反射鏡保守点検（保守点検委託料）	1,925,000円	・防犯カメラ借上料	3,391,740円	・自転車乗車用ヘルメット購入費補助	490,700円	・防犯カメラ設置費補助	853,000円	・防犯対策費補助	1,743,000円	・特殊詐欺防止用電話機器購入費補助	376,700円
・反射鏡等の設置及び撤去	377,300円																
・善師野駅南自転車等駐車場法面整備工事請負費	1,232,000円																
・反射鏡保守点検（保守点検委託料）	1,925,000円																
・防犯カメラ借上料	3,391,740円																
・自転車乗車用ヘルメット購入費補助	490,700円																
・防犯カメラ設置費補助	853,000円																
・防犯対策費補助	1,743,000円																
・特殊詐欺防止用電話機器購入費補助	376,700円																
事業の成果・効果	犬山警察署や町会長、市民団体等と連携し、各季の街頭大監視をはじめとした交通安全運動を実施し、市民等の交通安全意識の高揚を図った。道路交通環境の整備に関して、土木要望等に基づき、反射鏡関連（11本）、停止指導線（31か所）、交通安全啓発看板（45枚）を対応した。安全な地域づくりに関して、市内の主要な交差点等へ新たに3基の防犯カメラを設置することができた。また、交通安全及び防犯に関する補助金により、交通安全及び防犯意識の高揚を図り、安全で安心なまちづくりを推進した。【防犯対策費補助（185件）、特殊詐欺防止用電話機器購入費補助（77件）、自転車乗車用ヘルメット購入費補助（256件）】																

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

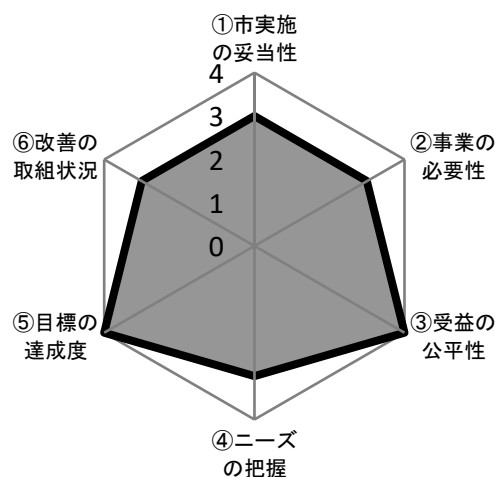
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
交通安全対策事務	4,023	244	3,779	94%	3	3	4
交通安全対策施設整備	5,060	0	5,060	100%	3	3	3
自転車等駐車場管理	2,050	8	2,042	100%	3	3	3
防犯推進	8,763	1,140	7,623	87%	3	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	19,896	1,392	18,504	93%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		19,858	19,896	23,237
財源内訳	国県支出金	1,197	1,384	1,400
	地方債	0	0	0
	その他	4	8	21
	一般財源	18,657	18,504	21,816
一般財源の割合		94%	93%	94%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市民にとって安全で安心なまちづくりを実現するために必要な事業である。
②事業の必要性	3	市民が安全に安心して生活する上で、交通安全や防犯活動に関する施策は必要な事業である。
③受益の公平性	4	全市民が対象となる事業である。
④ニーズの把握	3	町会長や土木常設員、PTA等を通して、交通安全や防犯に関する要望を随時受け付けており、ニーズを把握している。
⑤目標の達成度	4	新たに防犯カメラを3基設置した。また、町内会等へ防犯カメラの設置費補助を実施した。犬山警察署等と連携し、交通安全や防犯活動の啓発活動を定期的に実施した。
⑥改善の取組状況	3	交通安全や防犯対策等について、他市町の例を参考に、今後も活動の幅を広げるとともに、改善を継続的に進める。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	- 警察との連携体制の確認 - 自転車等駐車場の環境整備 (善師野駅：法面舗装 富岡前駅：白線設置)
令和8年度に見直しを実施している事項	犯罪被害者等支援の特化条例化
今後見直しを検討する事項	反射鏡や啓発看板などの交通安全施設の効率的な維持管理方法の検討

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
市民生活に不安や脅威等を与える犯罪や交通事故などは依然として後を絶たない。市民が安全で安心して暮らすことができる環境の整備。	犯罪の未然防止のため、防犯カメラの設置や補助事業による市民等の防犯活動を支援していく。また、犬山警察署や町会長、市民団体等と連携し、各季の街頭大監視をはじめとした交通安全運動を実施し、市民等の交通安全意識の高揚を図っていく。

令和7年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	市民部
款	項	目			課 名	防災交通課
2	1	11	交通防犯対策費	166		

I：事業概要

施策事業名	地域公共交通事業
事業目的	交通空白地に居住する交通弱者等の交通手段の確保と日常生活の支援拡充を図る。
事業内容	●全体計画 ・利用者が安全に安心して移動できるよう、運行事業者と連携し、コミュニティバス（愛称：わん丸君バス）を運行する。 ・地域住民等の移動手段を確保できるよう、鉄道、バス、タクシー等の交通事業者と調整を図っていく。 ●主な事業内容 ・令和5年12月より、栗栖地区、今井地区の中学生の通学のため、朝便2路線を導入。車両8台、10路線、月曜日から金曜日までの平日毎日（祝日含む）を運行。 ・令和6年12月より、岐阜バス「明治村線」の減便対応として、公共ライドシェアを朝夜運行。 ●主な決算の内訳 ・コミュニティバス運行負担金 87,249,891円 ・公共ライドシェア運行負担金 2,336,838円 ・コミュニティバス再編業務委託料 5,500,000円 ・印刷製本費（1日乗車券、回数券） 316,140円 ・燃料費（公共ライドシェア） 453,599円
事業の成果・効果	・利用者が安全に安心して移動できるよう運行事業者と連携して、わん丸君バスを運行した。 ・わん丸君バスの利便性の向上のため、次回再編のダイヤやルート案などを検討した。 ・公共ライドシェアの運行を検証し、令和8年4月以降の運行継続を決定した。 ・公共ライドシェア車両（マルモビ）購入にあたり、日中も車両を活用するため、新たな地区での公共ライドシェアの実施を検討した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

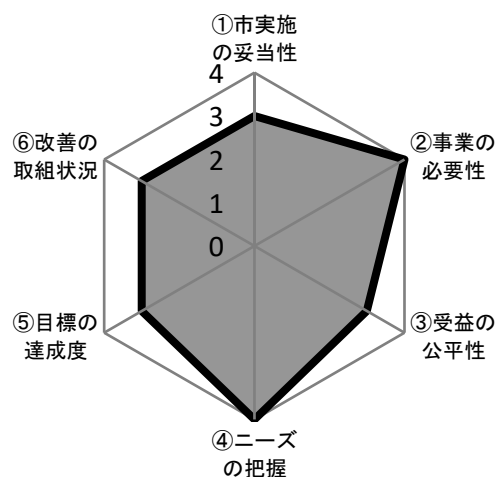
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
地域公共交通	96,751	1,365	95,386	99%	3	4	3
公共交通網整備基金積立金	1	1	0	0%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	96,752	1,366	95,386	99%	3	4	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R6決算	R7決算	R8予算
		91,577	96,752	176,247
財源内訳	国県支出金	605	0	44,950
	地方債	0	0	4,400
	その他	1,481	1,366	3,528
	一般財源	89,491	95,386	123,369
一般財源の割合		98%	99%	70%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	高齢者などの交通弱者に対する移動サービスの提供として、わん丸君バス等の公共交通は必要不可欠であるが、民間事業者がバス事業から撤退しており、交通弱者の移動手段を確保するため、市が主体的に実施しなければならない。
②事業の必要性	4	わん丸君バスは高齢者などの交通弱者が、買い物や病院へ行くための貴重な移動手段となっており、日常生活に直結する事業である。
③受益の公平性	3	年間延べ約11万人がわん丸君バスを利用している。運賃は大人1日200円。公共ライドシェアの利用者は岐阜バス料金を参考に1乗車300円。
④ニーズの把握	4	町会長アンケートや利用者アンケートにより、地域のニーズを把握している。
⑤目標の達成度	3	令和5年12月のバス再編により1日あたり16便の減便をしたものの、バスの乗車人数は令和7年度115,522人(R6:110,747人、前年比4,775人増)と微増している。
⑥改善の取組状況	3	運転士や車両、財源の制限などがあるものの、アンケートにより把握したニーズを活用し、令和8年12月の再編で更なる利便性の向上に努めていく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和7年度に見直しを実施した事項	・わん丸君バス再編案(ダイヤやルート)の検討 ・令和8年4月以降の公共ライドシェア(朝夜運行)の運行を検討 ・日中の時間帯の公共ライドシェア実施の検討
令和8年度に見直しを実施している事項	・わん丸君バスの再編実施(ダイヤやルート) ・公共ライドシェア(朝夜運行)の継続 ・公共ライドシェア(日中運行)の実施 ・公共ライドシェアの車両購入 ・タクシー補助事業の実施
今後見直しを検討する事項	・わん丸君バスの維持確保のため、運転士の確保や安全で利便性の高い運行方法の検討 ・わん丸君バスとその他の公共交通のハイブリット化の検討

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和7年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
利用者ニーズに合致した総合的な公共交通と、運転士不足への対応。	利用実態やニーズに対応した効率的なバスの運行(ルート、ダイヤ)を研究する。また、わん丸君バスだけでなく、デマンド交通など様々な移動手段の組み合わせを研究し、市全体の公共交通ネットワークの形成を図る。